

640km の一泊最東端への旅であった。二日掛りで久々の北方領土を遥かに臨んで、未だ帰らざる島に思いを馳せ、次第年老いつつある元住民の嘆きを我が物とし、無力さ故か今ひとつ燃え上がらない領土返還運動に歯痒さを覚えた次第である。



(H15/5/25 山下撮影)

① 北方領土返還、風化させるまじ

紅顔ならぬニキビ面の頃に訪れた以来だから、かれこれ4半世紀以上が経っていた。着任して一刻も早く、冷厳な事実をこの目に焼き付けておくべきであったのだが、切実感が足りぬと非難されてもやむを得ぬ。

北方領土問題に関しては、「朔東から第6号 望郷の念止み難し」に記載しているので、参照して欲しい。

数千万人を超える署名がありながらも、一顧だにせぬ彼の国に苛立ちを覚えるも、現実の世界の厳しさを思い知らされる。近年、盛り上がり低調な気がするが、残念でならぬ。子々孫々に亘る息の長い返還運動・啓蒙運動、国際社会での理解の促進と返還気運の醸成、彼の国への弛まぬ要求と地道な信頼醸成措置が必要なのだろう。

十勝平野から見える最近の夕日は異状に赤いと言う。『何時もの夕日とは違う』と言うのは、当地に長く住んでいる人々である。あの赤い太陽は、シベリアの大規模な山火事の影響らしい。困ったものだ。しかし、神秘的ではないか？

(閑話休題)

② 領土返還運動と旅の宿エクハシ

根室の宿は民宿である。旅の宿 エクハシ？ アイヌ語？ 英語か何かの外国語？ 由来を尋ねてみれば、役場で北方領土返還に関わる仕事を熱心におられた先代が、皆に島の名前を簡単に覚えて貰う為に、4島の冠の一字から『ハシ、クエ』を案出し、民宿を開く際に、その4字から一寸しゃれた感覚で「エクハシ」と命名したということである。この名前には領土返還運動の思いが凝縮されている。最東端の食材に大満足したことは言うまでもない。面白い珍しい風呂、即ち歯舞産アツパコンブエキスとラベンダーのタラソテラピーの湯でのんびり出来るのも民宿ならではか。

③ 歴史の凝縮した町：白糖

白糖付近を車両通行する時に気になっていたものが岬らしきところの碑らしきものであった。また、朔東の調査の課程でも白糖は結構歴史の証人みたいな面がある。北海道での最初の採炭地は白糖と釧路であり、それを記念しての「北海道石炭採掘創始の碑」と言う碑がその名も石炭岬に建立されている(安政4年1856開発着手)。寛政12年には八

王子千人同心が入植し、非常な苦勞をしながら今日の白糠の基礎を築いた。縁の碑も近くに建立されている。

明治33年には、軍馬の重要な産地であった同地には軍馬補充部釧路支部が置かれ、賑わった。和天別で働く牧夫が、青森出身の軍属から教えられたのが、今では道東を代表する民俗芸能となった「白糠駒踊り」である。

#### ④ 千島桜、桜紀行の上がり

1月の始めに沖縄の緋寒桜の開花に始まる日本の桜前線は、例年だと5月末の根室静隆寺の千島桜の開花を持って半年近い北上を終える。昨年に引き続き今年も釧路の開花が遅くなったが……。明治初期に国後島から移植された、樹齢100年以上の、お寺の境内に植えられた桜が丁度満開であった。白い花もあったが、偶々訪れた地元の方に聞けば肥料によって花の色が微妙に変るといふ。寒さ故か、風の影響か桜の幹は上に伸びるよりもどちらかと言うと地を這うように伸びるのが特徴のようだ。念願の千島桜に感動し、小生の桜紀行を終わりを告げた。

#### ⑤ リンドバーク縁の落石岬

根室からの帰途、落石岬に立ち寄る。落石無線局跡があった。昭和6年太平洋横断中のリンドバーク大佐夫妻が濃霧に行く手を阻まれながらも落石無線局の誘導により根室に無事着水したという。これ以前の昭和4年には巨大飛行船ツエッペリン号の無線連絡をいち早く受信したという当時としては、重要な無線局であった。

現在の灯台近くには、この付近を南限とするサカイツツジの群落がある。残念ながら、蕾にはまだ早かった。水芭蕉は咲き誇っていたが……。自然を荒らさないように、高さ1m位の木道が造られていたが、自然を守るというのは大変なものだ。余りにも心無い者が多過ぎる。

#### ⑤ エスカロップともう一つの御馳走

湖岸延長線は実際は90kmに及び、鳥の天国・楽園（240種以上が確認されている）とも呼ばれる風連湖に面し、8kmもの長さの砂州である春国岱にも近い道の駅スワン(スタンプラリー11個目)、根室の代表的な食べ物エスカロップ(朔東から第40号に記載済み)に挑戦した。根室では超メジャーな料理だ。筍のみじん切り入りのバターライスの上に豚カツが乗ってデミグラスソースを掛けて食すものである。本来は小牛の肉だったけれども何時しか豚肉に変わったらしい。そのエスカロップを食事しているとウエイトレスのおばさんが寄って来て、『あそこに番の丹頂がいますよ』と教えてくれる。決して押し付けがましい訳ではない。お客第一に考えての親切心の発露だ。質問すると色々答えてくれる。何よりの御馳走だった。

望郷 (於：納沙布岬) (H15/5/28 作)

島影 帰心 去難 留  
漁撈 細々 幾春 秋  
多年 仮宿 民将 老  
佇岬 懷郷 血淚 流

(参考：百科事典、各種のパンフレット etc)